

令和3年度
公益財団法人山口市文化振興財団
事業計画

令和3年3月

I 基本目標

山口市から管理運営を受託している山口市市民会館、中原中也記念館及び山口情報芸術センターにおいて、各施設の持つ特性を十分に生かしながら、さまざまな文化に触れる機会、参加する機会などを提供する企画事業を実施することで、山口市における文化振興の一翼として、文化を育むまちづくりに寄与するよう努めます。

II 基本方針

市民自らが多様な文化活動へ参加し、芸術文化を享受できる環境づくりを目指して、鑑賞型、参加型、さらには創造型の企画事業を展開するとともに、広く文化に関する情報を収集し、提供します。

また、市民の自主的かつ創造的な文化活動を促進し、支援するための事業を行います。

なお、これらの事業を実施するにあたっては、年度単位での事業計画策定及び事業実施のみでなく、長期的な視点による事業計画や事業展開を行うとともに、事業内容の一層の充実に資する新たな発想による取り組みも推進します。

III 個別事業計画

定款第4条に掲げる6事業、「企画事業」、「育成・支援事業」、「調査研究事業」、「情報収集・提供」、「施設の管理運営受託事業」及び「その他法人の目的を達成するために必要な事業」について、以下のとおり実施します。

1 企画事業

当財団が山口市から管理運営を受託している山口市市民会館、中原中也記念館及び山口情報芸術センターにおいて、各施設の持つ特性を生かしながら、文化振興に関する様々な企画事業を実施することで、市民の皆様が幅広く芸術文化に触れる機会、参加する機会を創出します。

(1) 事務局

山口市市民会館、山口情報芸術センターにおいて、広域的かつ幅広い年齢層を対象とした、演劇などの舞台芸術や、日本の伝統芸能の公演を行います。

(2) 山口市市民会館

オーケストラによる演奏会やジャズコンサートなど、質の高い音楽の鑑賞機会を提供するとともに、娯楽性の高い落語会などを開催します。

また、令和3年度は、開館50周年を記念し、山口市からの委託事業として記念式典や多彩な公演を行うことで、長く市民に親しまれ、多様な芸術文化の鑑賞機会を提供してきた館の節目の年を大いに盛り上げます。

(3) 中原中也記念館

中原中也を軸として、その軌跡や親交のあった人物を紹介するテーマ展示や企画展、特別企画展を実施するとともに、中也の人と作品を分かりやすく解説し、理解を深める一助として、講演会や読書会を開催します。

また、中也の生誕日には、詩の朗読を好んだ中也にならない、自作や愛読の詩を朗読する市民参加型イベント〈中原中也生誕祭〉を実施します。

なお、令和3年度は、山口県央連携都市圏域で開催する「山口ゆめ回廊博覧会」の一環として、文学者関連施設である山口市小郡文化資料館、防府市山頭火ふるさと館、森鷗外記念館と連携し、文学ラリーを行います。

(4) 山口情報芸術センター[YCAM]

これまでにない新しい芸術作品をプロデュースし、作り続けること、メディア・コミュニケーション技術や最新テクノロジーの社会応用を実験することのできる施設として存在すること、そして、これらの成果を市民に質の高い文化芸術経験と教育的な価値として届けることを基本理念として、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求を軸に多彩なイベントを実施するとともに、市民や地域コミュニティとの関りを意識した事業展開を進めます。

なお、令和3年度は、山口県央連携都市圏域で開催する「山口ゆめ回廊博覧会」の一環として、音楽家の坂本龍一が、アーティストの高谷史郎とのコラボレーションのもと、YCAM10周年記念祭に制作・発表した3作品を展示する展覧会「坂本龍一 ART-ENVIRONMENT-LIFE 2021」をはじめ、多彩な事業を行います。

2 育成・支援事業

財団友の会会員へのサービス向上を図るとともに、組織の拡充に努めます。

また、市民が日常的に芸術文化に触れる機会、文化活動に取り組む機会の拡充を図るため、市民の自主的な文化活動に対し助成金を交付し、側面的に支援する事業を継続実施します。

(1) 友の会の拡充と運営

公益財団法人山口市文化振興財団友の会「Ars Nova Yamaguchi」(呼称:エニー)の会員について、既加入者の継続加入及び新規加入の促進を図ります。

なお、令和3年度は、4月1日から6月30日にかけて入会金無料を特典とする新規入会キャンペーンを実施します。

① 会員期間

入会日から翌年の入会月末まで

② 会費

- ・入会金(更新時には不要) 500円
- ・年会費 1,500円

③ 会員特典

- ・チケットの先行予約及び割引購入
- ・情報誌(4・7・10・1月発行)及び催物案内(毎月末)の定期送付
- ・入会時及び更新時に YCAM シネマ及び中原中也記念館の招待券進呈

④ 会員数の推移(件数)

※3月1日時点

種 別	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
個人会員	944	935	905	885	1,129	※990

(2) 市民文化活動支援事業助成金交付事業

営利を目的としない市内の個人及び団体等が行う文化事業を助成支援するため、平成9年度に創設した「公益財団法人山口市文化振興財団市民文化活動支援事業」を継続実施します。

市報への募集記事掲載や市内関係機関への資料配布等による広報を行い、より多くの市民の自主的かつ創造的な芸術文化活動を支援します。

① 募集期間

令和3年3月1日～3月31日

② 助成金額

一事業につき50万円を上限

③ 審査方法

審査委員会の設置、開催

④ 申請及び採択件数の推移

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
申請件数	18	12	17	14	20	9
採択件数	17	11	17	14	13	8

3 調査研究事業

(1) 中原中也研究

関係資料の調査、収集、修復、複製の製作等により、中原中也研究を推進します。

(2) 自主企画事業に関する調査及び研究

公演毎にアンケート調査を随時行い、企画事業に対する市民ニーズ等の調査研究を進めます。

また、事業成果のまとめとして、ドキュメント制作や展示・公演記録、ワークショップパッケージ等のパブリシティに関わる作業を行います。

4 情報収集・提供事業

(1) 情報誌「any」の刊行

平成9年1月から刊行している情報誌を年4回(季刊)、継続刊行します。

(2) 山口市民会館催し物案内の発行

市民会館における催し物を紹介案内する広報紙を月1回、継続発行します。

(3) 中原中也記念館 館報第27号の発行

活動記録、寄稿文等を掲載する館報を年1回、継続発行します。

(4) 機関紙「中原中也研究」第26号の刊行

研究論文、エッセイ、シンポジウム記録等を掲載する機関誌を年1回、継続刊行します。

(5) 山口情報芸術センター催し物案内の発行

山口情報芸術センターにおける催し物を紹介案内する広報物を継続的に発行します。

(6) ホームページの充実

財団及び山口情報芸術センター、中原中也記念館、山口市民会館のホームページにより、イベント情報を随時発信します。

また、財団の主催・共催公演に関しては、財団及び山口情報芸術センターのホームページからでもチケット予約ができるほか、友の会への入会・更新もホームページ上から手続き可能となっています。

5 施設の管理運営受託事業

当財団が山口市から管理運営を受託している山口市民会館、中原中也記念館及び山口情報芸術センターにおいて、お客様に「安全、安心、快適」に利用していただけるよう適切な業務を行います。

また、山口市民会館及び山口情報芸術センターにおいては、市の条例に基づいた施設の貸与事業を行い、利用者のニーズを踏まえた施設運営に努めます。

6 その他法人の目的を達成するために必要な事業

山口市が主催する、山口市出身の詩人中原中也の業績を顕彰するために創設された現代詩を対象とする文学賞、「中原中也賞」について、市からの委託によりその贈呈式の運営補助を行います。

第26回目となる今回の中原中也賞には、公募・推薦の詩集268冊の中から小島日和さんの『水際』が選ばれ、中原中也の生誕日である4月29日に、賞の贈呈式と記念講演を開催します。

企画事業一覧

財団事務局

事業名	開催時期等	内容
ハイバイ 「ヒッキー・カンクーントルネード」	9月10日(金)、11日(土) 場所:山口情報芸術センター	岸田國士戯曲賞、向田邦子賞を相次いで受賞し、今をときめくハイバイ主宰・岩井秀人が、16歳から20歳まで引きこもっていた自分の経験を元に描いた、劇団の旗揚げ作品にして代表作を上演します。 プロレスラーを夢見る引きこもり(ヒッキー)の登美男。唯一の理解者である妹と、外に出そうとする母親との平和な日常は、「出張お兄さん」の登場で一変する。 平成15年の初演以降、再演を繰り返しながらブラッシュアップされてきた最大の人気作品です。
M&Oplays プロデュース 「いのち知らず」	11月25日(木) 場所:山口市民会館	M&Oplays が岩松了と定期的に行っているプロデュース公演で、今回は若手実力派俳優の勝地涼、仲野太賀を中心に、個性派俳優の新名基浩、映像をメインに活躍している光石研など、男性ばかり5人のキャストでお贈りする新作演劇公演です。 とある山間にある研究所を舞台に、その施設の目的も知らずに門番として雇われている二人の若者と、やはりその施設で雇われている年配の男の交流を通して、「いのち」の意味と男同士の「友情」の真価を問う問題作です。
近藤芳正 Solo Work 「ナイフ」	令和4年2月13日(日) 場所:山口情報芸術センター	映画、テレビドラマ、舞台など幅広く活躍する俳優・近藤芳正が新たに挑むひとり芝居。 人気作家・重松清の短編小説「ナイフ」を舞台化し、新作公演を創作します。 いじめをテーマとした父と子の拙くも必死な日常を描く、愛と再生の物語。 父親や中学生の息子、妻、学校教師など、性別や年齢の異なるすべての登場人物を、息遣いや筋肉の動かし方で演じ分ける、近藤芳正の演技力・表現力が光る必見のひとり芝居です。 創作時期を延期しての改めての上演となります。

事業名	開催時期等	内容
浪曲×映画	10月開催予定 場所:山口情報芸術センター	<p>昭和初期のサイレント映画からトーキー映画への移行期、日本独自の話芸として当時大流行していた浪曲(三味線を伴奏に物語を語る演芸・話芸)を映画に取り入れた浪曲トーキー＝浪曲映画の魅力を、浪曲実演付き映画上映で紹介します。「浪曲」になじみのない若年層も、「映画」という視覚的要素が組み合わさることで、ハードルが高く敬遠されがちな日本の伝統芸能を体験しやすくなります。</p> <p>上映作品としては、元祖・浪曲映画「新佐渡情話」(昭和10年)を含む、4作品を予定。</p> <p>そのうち1作品は、サイレント映画のスタンダードな上映スタイルであった活弁付きで上映予定です。</p>
防災プロジェクト 落語公演編(仮)	令和4年2月開催予定 場所:山口情報芸術センター	<p>公共施設として災害に対して十分な備えができていないのか確認するとともに、日頃から防災の意識をもっておくための防災プロジェクトを開催します。</p> <p>今回は幅広い年齢層に浸透している伝統芸能であり、親しみやすい落語公演と避難訓練との組み合わせで実施。</p> <p>落語公演中に災害が発生した場合を想定して、お客様とスタッフが一緒に行う避難訓練です。</p> <p>避難訓練が終わったあとはゆっくりと落語をお楽しみいただきます。</p>

山口市民会館

事業名	開催時期等	内容
DRUM TAO 2021 「祭響=SAIKYO=」	4月10日(土) ※令和2年6月6日の振替公演	驚異のパフォーマンスで表現する和太鼓演奏グループ「DRUM TAO」による、全国ツアーの山口公演を開催します。
やまぐち JAZZ FESTIVAL	7月18日(日)	市内のアマチュアバンドを中心に、ゲストアーティストを交えたジャズフェスティバルを開催します。
特撰東西落語名人会 三遊亭小遊三・桂文珍	7月21日(水) ※令和2年9月17日の再振替公演	テレビでおなじみの噺家、三遊亭小遊三・桂文珍による落語会です。
山口県交響楽団 サマーコンサート	8月29日(日)	山口県交響楽団による、子どもから大人まで幅広くオーケストラに親しんでもらえる演奏会を開催します。
NHK 交響楽団演奏会 山口公演	8月31日(火)	NHK 山口放送局の開局80周年と山口市民会館の開館50周年を記念した演奏会を開催します。
挟間美帆 m_unit Jazz Live	9月12日(日)	2020年のグラミー賞にノミネートされたジャズ作曲家の挟間美帆が率いる室内楽団「エム・ユニット」による、ジャズ・アンサンブルのコンサートです。
山口市民会館 開館50周年記念式典 及び公演	10月9日(土)	開館50周年記念式典とともに、市内の舞踊団体と山口大学管弦楽団とのコラボレーションによる、組曲「展覧会の絵」の公演を開催します。
思い出募集事業 「私と山口市民会館」	10月開催予定	市民から山口市民会館の思い出(写真と一言)を募集し、写真のパネル展示や記念誌等への掲載を行います。
山口県交響楽団 定期演奏会	12月12日(日)	山口市民会館にて隔年で開催される山口県交響楽団の定期演奏会です。
ニューイヤー・コンサート (仮)	令和4年1月15日(土)開催 予定	海外のオーケストラによる、ニューイヤー・コンサートを開催します。
第26回ニューイヤー バンドフェスティバル2022	令和4年1月22日(土)	山口県吹奏楽連盟加盟団体が、平素の練習成果を発表するとともに、他団体の演奏を聴くことにより、演奏技術ならびに音楽表現力の向上を深め、あわせて各団体の親睦を図るコンサートです。
第49回市民コンサート	令和4年3月21日(月・祝)	年度内に開催された各種コンサートにおいて優れた成績を収めた方々や、平素から熱心に音楽活動を行っている方々を招いての“アンコールコンサート”です。 あわせて市内中高生で編成するジュニアオーケストラにソリスト等を招聘し、コンサートを締めくくります。

中原中也記念館

事業名	開催時期等	内容
第18回テーマ展示 「君に会ひたい。—中原中也の友情」	2月17日(水) ～ 令和4年2月13日(日) ※特別企画展会期中を除く	<p>中原中にはたくさんの友人がいました。互いの文学観や芸術観をぶつけ合う仲間もいれば、ともに生活をしたり旅行したりする気の置けない友もいました。</p> <p>酒の席で激しく喧嘩したり、「訪問魔」といわれるほど頻りに家に押しかけるなど、友人たちを困惑させることも多かった中也ですが、一方では、非常に礼儀正しく、繊細な一面も持っていました。</p> <p>そんな中也の姿を、多くの友人たちが印象的に語っています。</p> <p>また、中也の詩の紹介に尽力したのも、友人たちでした。</p> <p>寂しがり屋で、常に友人を求め、相手とより深く理解し合いたいと願っていた中也。</p> <p>本展では、様々な友人たちとの関係を紹介しながら、中也にとって「友情」とは何かを探ります。</p>
企画展Ⅰ 「中也、この一篇—「正午」」	4月14日(水) ～ 7月25日(日)	<p>中也の代表作をじっくりと味わう企画展シリーズ、3回目となる今回は「正午」を紹介します。</p> <p>本作は副題に「丸ビル風景」とある通り、詩の制作当時は日本最大のオフィスビルだった「丸ノ内ビルディング」が舞台となっています。</p> <p>中也は、そこで働く大勢の人々が、昼休みを知らせるサイレンを合図にして一斉に外出する様子を、少しおどけた言葉で描き出しています。</p> <p>本展は「正午」について、言葉の注釈、同時代文学に描かれた丸ビルや東京、制作当時の中也、などの観点から、その奥深い魅力に迫ります。</p>
中原中也生誕祭「空の下の朗読会」	4月29日(木・祝)	<p>中也の生誕日に前庭で開催。詩の朗読を好んだ中也にならい、自作や愛読の詩を朗読する一般参加の朗読会とコンサートを行います。</p> <p>今年のゲストはシンガーソングライターの浜田真理子さんとサクスのMarinoさんです(無料)。</p>
屋外展示	前期 5～10月 後期 11～4月	<p>中也ゆかりの山口線をイメージした枕木を敷きつめている中庭では、今年のテーマ「虫」にちなんだ中也の詩を紹介します。</p>

事業名	開催時期等	内容
第6回ぼうしの詩人賞～あつまれ！未来の中也たち！～	募集：7月1日(木)～10月下旬	<p>帽子をかぶった中也の肖像写真のイメージから名付けられた「ぼうしの詩人賞」。</p> <p>山口市在住の小中学生を対象に、「中原中也」や「詩」に触れる機会をつくるため創設しました。</p> <p>12月に表彰式・朗読会を行います。</p>
特別企画展 「書物の在る処—中也詩集とブックデザイン」	7月29日(木) ～ 9月26日(日)	<p>詩集には美しくデザインされた本が数多くあります。</p> <p>詩人たちは詩集を通じて自らの作品世界を表現するために、装幀にさまざまな工夫を凝らしてきました。</p> <p>中原中也の詩集『山羊の歌』『在りし日の歌』、3冊のランボオ翻訳詩集もまた、高村光太郎、青山二郎、秋朱之介らといった、個性豊かな装幀家、出版人の手によってかたちづけられました。</p> <p>それらの佇まいには中也と装幀家それぞれの思いが映し出されています。</p> <p>本展では、中也と装幀家たちとの関わりや彼らの美意識、そして大正から昭和初期にかけて出版された詩集のブックデザインを紹介します。</p>
公開講演	第1回 9月11日(土) 第2回 10月～令和4年2月開催予定	<p>「中原中也の会」との共催により、講演会を行います。</p> <p>第1回 講師：川島幸希氏(秀明大学学長・日本近代文学研究者)</p>
企画展Ⅱ 「雑誌「詩園」—中也・山頭火と山口の文学青年たち」	9月29日(水) ～ 令和4年4月17日(日)	<p>昭和13年、中原中也一周忌を前に、中也の詩を敬愛する山口県内の若い文学青年たちが文芸同人誌「詩園」を創刊しました。</p> <p>同人は和田健、中也の弟・中原呉郎をはじめ、長谷執持、林かほる、矢嶋行隆、村田富久太、福富忠雄らでした。</p> <p>彼らは詩の創作に励みながら、誌上に中也の遺稿を載せたり、一周忌に墓参をおこなったりと、中也の顕彰活動を行っていました。</p> <p>また、当時山口に住んでいた俳人・種田山頭火と交流し、山頭火の句や文章も掲載しています。</p> <p>このたびは、山口県立大学郷土文学資料センター協力のもと、戦時下の山口の文学を支え、中也顕彰の先駆けともなった雑誌「詩園」について紹介します。</p>

事業名	開催時期等	内容
中也忌	10月22日(金)	<p>中也の命日10月22日、中也在眠る「中原家累代之墓」に職員がお参りし、募集したメッセージを墓前に供えます。</p> <p>この日は入館無料となります。</p>
山羊の日	12月10日(金)	<p>昭和9年12月10日、中也の生前に刊行された唯一の詩集『山羊の歌』。</p> <p>中也にとって念願の第一詩集が出た記念すべき日を「山羊の日」と名付けてお祝いします。</p> <p>『山羊の歌』に関連する特別展示、来館者プレゼントを予定しています。</p>
中原中也を読む会	毎月第4金曜日	<p>教育普及事業として実施。</p> <p>テーマに沿った中也の詩を読み込んだり、記念館の展示を学芸員の解説とともに見学するなど、気軽におしゃべりしながら、詩の世界を楽しく味わうことができます(無料)。</p>

山口情報芸術センター[YCAM]

事業名	開催時期等	内容
quartets online	令和2年9月9日(水) ～ 令和3年9月8日(水)	音楽家の大友良英をはじめとする数多くのアーティストの共作によるインスタレーション作品《quartets》のオンライン版《quartets online》を発表する展覧会です。 平成20年にYCAMが発表した音楽家・大友良英らのインスタレーション作品《quartets》をオンラインならではの作品に再構成したもので、無限の即興演奏を、インターネットを介して鑑賞者各自の端末でいつでも体験できます。
ホー・ツーニエン ヴォイス・オブ・ヴォイド-虚無 の声	4月3日(土) ～ 7月4日(日)	シンガポールを拠点に活躍するアーティスト、ホー・ツーニエンによる新作インスタレーションを発表する展覧会です。 哲学者・思想家の西田幾多郎や田辺元を中心に形成されたグループで、1930年代から40年代の日本の思想界で大きな影響力を持った「京都学派」をテーマに、YCAMとのコラボレーションのもと、アニメーションとVR(ヴァーチャル・リアリティ)を用いた新作の映像インスタレーションを発表します。
YCAM スポーツ共創 実験スタジアム 2021	5月2日(日)～5日(水・祝)	参加者がイベントを企画する立場になって、スポーツ共創の手法を取り入れたイベントの運営に必要な要素を学びながら、イベント参加後に自身のコミュニティで実現したいアイデアを練り上げていきます。 この過程で、従来開催していた「YCAM スポーツハッカソン」のように、運動会種目の開発と、運動会の設計を体験します。
第6回 未来の山口の運動会	5月4日(火・祝)	「YCAM スポーツ共創実験スタジアム 2021」で生み出されたスポーツを体験するイベントです。これまではYCAMを会場に多くの参加者を募集して開催していましたが、今回は「YCAM スポーツ共創実験スタジアム 2021」の参加者が運動会を実施している様子をYouTube Liveで生配信します。 実施する種目には視聴者がインターネットを介して参加するタイプの種目も登場し、自宅にいながらにして運動会に参加いただける予定です。

事業名	開催時期等	内容
YCAM Dance Crew	6月26日(土) ～ 7月25日(日)	<p>ダンスの記録撮影やシェアを気軽にこなうことができるスペースです。</p> <p>センサーなどが埋め込まれた専用のブースでダンスをおこなうと、瞬時にダンスを撮影し、踊っている人の動きが検出されます。</p> <p>その結果をもとに、CGによる視覚効果(エフェクト)がダンスに合成され、さらにその映像をダウンロードすることができます。</p> <p>会期中にはこのシステムを用いた振付家によるワークショップも開催。</p> <p>SNS やスマートフォンなど、今日のツールによって生み出される新しいダンスのかたちを探していきます。</p>
YCAM performance lounge #7 搬入プロジェクト 山口・中園町計画	7月24日(土)	<p>現在生まれつつある新しい身体表現の魅力をダイレクトに伝えるシリーズ企画「YCAM performance lounge(パフォーマンス・ラウンジ)」の第7弾です。</p> <p>パフォーマンス集団・悪魔のしるしの代表的な演劇プロジェクトのひとつ《搬入プロジェクト》を実施します。</p> <p>本作は、建物内にかろうじて入る大きさ・形状に設計された巨大な物体を、人力で館内に搬入する様子を演劇として提示する作品で、これまでに世界各国の20箇所以上で実施されてきました。</p> <p>今回実施するのはYCAMが、YCAMの建物に合わせてアレンジしたものとなります。</p>
鑑賞ナビゲーターキャンプ 2021	8月7日(土)、8日(日・祝)	<p>芸術作品を通じた対話を楽しむ場を運営するために必要なスキルを習得する2日間のイベントです。</p> <p>企業内人材育成や教育現場などで対話型鑑賞法を実践したいと考えている方を対象に鑑賞教育の専門家を講師に迎え、グループで対話を通して芸術作品を鑑賞する手法や対話型鑑賞法についてのレクチャーやワークショップをおこないます。</p>

事業名	開催時期等	内容
真夏の夜の星空上映会 2021	8月13日(金)～15日(日)	YCAMに隣接する中央公園で開催する恒例の野外上映イベントで、心地よい夜風と星空の下、映画を鑑賞する夏ならではの上映会です。多彩なジャンルの映画を上映することから、親子連れからお年寄りまで多くの方々が来場し、YCAMの「夏の風物詩」として、毎年大きな賑わいを見せています。
YCAM 爆音映画祭 2021	8月27日(金)～29日(日)	ライブ・コンサート向けの大規模かつ高品質なスピーカーを用いて映画を鑑賞する上映イベントです。国内でも最高レベルの音響環境と言われるスタジオAを会場に、作品内で追求されているサウンド面の「核心」を、物語や画面上の構成とともに体感する、これまでにない映画体験を創造します。
セラム クリクラボ(仮)	9月18日(土) ～ 12月19日(日)	インドネシアのジョグジャカルタを拠点に活動するアーティスト・コレクティブ、セラム(Serrum)による展覧会です。セラムは、メンバーのほとんどが美術教師としての教育課程を修了しており、美術と教育のための活動を15年ほど積極的に展開してきました。「共生」と「移動する学び場」をキーワードとする本展覧会では、セラムのこれまでの作品を紹介するとともに、アート、教育、市民性について批判的に思考し、議論するための新たなプラットフォームを創出します。
山口ゆめ回廊博覧会事業 坂本龍一 ART-ENVIRONMENT-LIFE 2021	10月8日(金) ～ 令和4年1月30日(日)	音楽家の坂本龍一が、アーティストの高谷史郎とのコラボレーションのもと、平成25年のYCAM10周年記念祭にYCAMで制作・発表した3作品を展示する展覧会です。山口市をはじめとする山口県央連携都市圏域で開催する「山口ゆめ回廊博覧会」の一環として開催します。自然や、そこで暮らす人の営みによって生み出された景観とともに作品を鑑賞することで、日常の中で見落とされている繊細な変化や、大きな時間の流れへの洞察が呼び起こされます。

事業名	開催時期等	内容
山口ゆめ回廊博覧会事業 科研プロジェクト研究成果展示 「Uncompleted Niwa Archives ——終わらない庭のアーカイヴ」	10月8日(金) ～ 令和4年1月30日(日)	2019年度よりYCAMが関わり3年計画でスタートした科学研究費 基盤研究(B)「日本庭園の総合的アーカイヴの開発をめぐる研究」(研究代表者:原瑠璃彦)の研究成果を、山口ゆめ回廊博覧会の一環として展示します。 本研究は、現代のテクノロジーを用いることによって日本庭園の新しいアーカイヴの手法を研究開発するもので、庭園アーカイヴで取得したデータを身体全体で体験できるように、まさに庭で体験するようなインスタレーションをYCAMの2階ギャラリーに構築します。
わたしもアートがわからない	第1回 10月9日(土)、 第2回 令和4年2月5日(土)	芸術作品をより楽しみ、理解を深めるためのイベントです。 作品鑑賞の際に鑑賞者の中に生まれる「分からない」という感覚を出発点に、作品鑑賞をより楽しいものに変化させるための「コツ」を、ワークショップや作品の鑑賞会などを交えながらお伝えします。
小泉明郎 縛られたプロメテウス	10月23日(土)、24日(日)	国家・共同体と個人の関係、人間の身体と感情の関係について、現実と虚構を織り交ぜたアプローチで作品を発表するアーティスト、小泉明郎によるVRを用いた演劇公演です。 本作はギリシャ悲劇『縛られたプロメテウス』(アイスキュロス作)をベースに神話的時間から発想された近未来の中で、観客は「他者」の感覚や感情を追体験していきます。 仮想世界から物理世界へと移動することで、古典的名作と結びついた「他者」の物語が観客に迫ります。
山口ゆめ回廊博覧会 山口県立美術館との連携事業 「見ないほうがよく見える」(仮)	10月～12月開催予定	山口県立美術館と共同で、美術作品をより深く鑑賞するための対話型鑑賞ワークショップを、山口ゆめ回廊博覧会の一環として実施します。 オンライン会場での参加者と、美術館会場の参加者が相互に交流しながら、雪舟に関連した水墨画を鑑賞することで、アートへの理解を深めていきます。

事業名	開催時期等	内容
キキミミチャンネル	10月～令和4年1月 (期間中12回開催)	<p>芸術作品の鑑賞を通じて、「未知なるものを面白がる力」を育むための、対話型のイベントです。</p> <p>スタッフとともに、YCAMで開催中の上映や展覧会などを鑑賞したうえで、参加者がじっくり考えたり、お互いに感想を交換したりしながら、対話を重ねていきます。</p>
ネットにくらす、私のひみつ	11月～令和4年1月 (期間中12回開催)	<p>インターネットにおける個人情報の扱われ方について考えるワークショップです。</p> <p>参加者はインターネット上のデータを手がかりとした推理ゲームや、模擬的な広告制作などのアクティビティをおこないながら、インターネットに支えられた自身の日常を振り返ります。</p> <p>本ワークショップを通じて、今後求められるテクノロジーや自身のアイデンティのあり方、コミュニティ形成などについて意見を交わすとともに、今日の情報化社会についての理解を深めていきます。</p>
YCAM オープンラボ 2021	11月26日(金)～28日(日)	<p>トークイベントを軸に、展示やライブコンサート、ワークショップなどを通じて、YCAMの研究開発活動を体験できる複合型のイベントです。</p> <p>5回目の開催となる今回は、「オルタナティブ・エデュケーション」をテーマに、関連する実践を行っている専門家を国内外から招聘し、アートセンターの役割、アートと都市開発との関係性、学びのための道具としてのアートについて議論を展開していきます。</p>
sound tectonics #25 VERNACULAR VIBES (バナキュラー・バイブス)	12月4日(土)	<p>サウンドアートや音楽など音に関する異なる領域から、新しい聴取体験を提供するライブコンサートシリーズ「sound tectonics(サウンド・テクトニクス)」の第25弾です。</p> <p>今回は日用品など身の回りに溢れたさまざまな要素を主な楽器として用いるエレクトロニクス・ファンタスティクス!とサビナ・アンを招聘し、サウンド制作における個々の生活に深く根ざした側面を提示し、彼らのサウンドの中にある無限の可能性を体験します。</p>

事業名	開催時期等	内容
食と倫理・リサーチ[リサーチ・ショーケース]	令和4年1月15日(土) ～ 4月2日(土)	「食」とそれを取り巻く倫理的側面との関係について調査研究するプロジェクト、「食と倫理・リサーチプロジェクト」の研究成果を発表する展覧会です。 「災害」と「バイオテクノロジー」という2つのトピックに焦点を当て、倫理とサステナビリティの側面から食についてのリサーチを展開します。 展覧会では、その成果をまとめた論文や雑誌などを資料とともに紹介します。
ショートショート国際フィルムフェスティバル 山口	令和4年2月9日(水) ～ 13日(日)	アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート国際フィルムフェスティバル」の作品を紹介する上映会です。 地方では鑑賞の機会の少ない短編映画を多数紹介することで、短編映画だからこそできる表現の可能性に触れる機会を創出するとともに、映画鑑賞のきっかけとなるような関連イベントを多数開催します。
YCAM シネマ	通年	通年で、国内外の優れた映画作品を紹介する上映会です。 今年度も、古典から最新作まで幅広い時代の様々なジャンルの映画の上映をおこないます。 また上映に合わせて、監督や出演者らのトークイベントも随時開催予定です。
委嘱作品の修復・整理・保存	通年	国内外の大学・研究機関などの芸術文化関係者との連携により、メディアアート作品の修復・整理・保存に関する研究を進めます。
委嘱作品の巡回	通年	開館以来、YCAM が制作し、発表してきたオリジナルの委嘱作品やワークショップの多くが、国内外の美術館や劇場、アートフェスティバルなどへ巡回しており、このことが現在の国内外からの高い評価へとつながっています。 YCAM のより一層の価値向上に資するため、委嘱作品の巡回展に積極的に対応します。
ビクターリサーチ評価	通年	来館者の総合的な体験デザインに向けて、展覧会やイベント来場者の鑑賞体験を調査し、外部リサーチャーとの研究会などを行います。 評価結果のオープン化や、館内サイネージ、展覧会・イベント事後 PR への活用を目指します。

事業名	開催時期等	内容
石若駿×YGAM 共同研究開発プロジェクト	通年	ジャズ、現代音楽、ロック、ヒップホップなどジャンルを問わない活躍をみせ、国内外で高い評価を受ける、パーカッショニストの石若駿と YGAM の共同研究開発プロジェクトです。 共同研究の過程を映像などで公開し、最終プレゼンテーションではリサーチャーや石若を迎えたトークセッションとともにライブデモンストレーションを行うことで、広域的かつ多角的に成果を発信していきます。
NTT 研究所とのテレプレゼンス共同研究	通年	NTT 研究所との共同研究として、遠隔地でも空間を共有している状態の中、参加型展示やワークショップなどを実施することで、時空間を超えた新しい公共スペースの展開を試みます。 2021 年度は「共在感覚」をテーマに、新たな研究成果を探求していきます。
ソニーコンピュータサイエンス研究所(ソニーCSL)とのムーンショット型研究開発事業	通年	ソニーCSL と共同で、サイボーグやアバターとして知られる一連のバーチャル・リアリティ技術を高度に活用し、人の身体的能力、認知能力及び知覚能力を拡張するサイバネティック・アバター技術を、社会通念を踏まえながら研究開発していきます。
山口市教育委員会との連携事業 「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」	通年	文部科学省が推進する「GIGA スクール構想」をふまえ、子どもたちの創造性を育む ICT 教育環境の実現に向けて、山口市教育委員会と連携して、「やまぐち子ども未来型学習プロジェクト」に取り組めます。 初年度となる令和3年度は、モデル校(小学校1校、中学校1校)を設け、ICT 機器やメディアを活用した学習プログラムを構築していきます。
プロモーション事業	通年	YGAM の多岐に渡る活動の内容や魅力を、ポータルサイトはもちろんのこと、テレビや新聞をはじめとするマスメディアやウェブマガジンなどのオンラインメディアへの広告出稿を通して発信していきます。 また、マスメディアなどでは伝えきれない多様な文脈やアウトプットを発信する手段としてガイドブックを制作し、幅広い層への情報発信を積極的に進め YGAM への理解度を高めていきます。